資料　9

現時点における本市のまちづくりの姿勢

現在までの状況

【世界】
・世界的な金融危機
・原油価格高騰
・新型インフルエンザ
・高度情報化

【日本】
・人口減少，少子高齢化
・低成長→景気回復基調
・東日本大震災・原発事故
・環境問題
・国際問題
・地方分権の推進

【北海道，道北，旭川】
・人口減少，少子高齢化，コミュニティの変化
・低迷が続く地域経済
・扶助費の増など厳しい財政状況
・老朽化が進むインフラ
・市民意識の変化

まちづくり基本条例　4つの基本理念

市民主体のまちづくりの更なる発展

地　域　資　源	
・市民活動，産業，文化活動など各分野における市民の活躍 ・知識や経験を持った人材が多く存在	
課　題	目指す方向性
・市民が主体的に活躍できるための環境が不十分	・自らの意思に基づき幅広い分野で充実した活動を行える環境づくり ・市民と行政の協働に更なる推進 ・まちづくりの担い手づくりの推進

魅力と活力のあるまちの実現

地　域　資　源	
・北北海道の拠点都市であること ・旭川の優位性や特徴（交通の要衝であるなどの地勢，産業，観光施設，医療・福祉や高等教育機関，官公庁の集積など都市機能）（再掲）	
課　題	目指す方向性
・北北海道の市町村における更なる連携の可能性	・北北海道の市町村における更なる連携の強化 ・北北海道全体の発展に向けた取組の強化 ・本市の拠点性の更なる発揮

ひ　と

市民がいきいきと活躍できるまちづくり

広　域

北北海道における拠点性を発揮するまちづくり

地　域

市民が支え合いながら安心して暮らせるまちづくり

ま　ち

地域資源をいかし，将来にわたって活力があり，住み続けられるまちづくり

地　域　資　源	
・町内会，市民委員会などの地域のつながり ・市内各地域それぞれの特性 ・地域の特性をいかした取組	
課　題	目指す方向性
・少子高齢化の進行 ・地域のかかわりの希薄化 ・町内会などの地域活動団体の担い手不足	・地域において互いに補完し，協力し合う関係づくり ・地域の主体性をいかした取組の更なる推進 ・担い手の育成

地　域　資　源	
・旭川の優位性や特徴（積雪寒冷地，自然，交通の要衝であるなどの地勢，産業，観光施設，医療・福祉や高等教育機関，官公庁の集積などの都市機能，自然災害が少ないこと） ・旭川独自の文化（文化芸術，アイヌ文化）	
課　題	目指す方向性
・積雪寒冷地 ・地域経済の低迷 ・地域資源の活用が不十分 ・都市機能の充実が必要 ・発信力不足 ・環境負荷（積雪寒冷地）	・地域資源を伸ばすための取組の強化 ・地域資源を活用するための取組の強化（発信力の強化） ・都市機能の充実 ・環境負荷の軽減

新たな総合計画によるまちづくり